

# 2017年 夏(6月～8月)の天候経過

平成29年9月1日  
新潟地方气象台

## 1. 北陸地方の今夏(6月～8月)の特徴

【高気圧に覆われて晴れた日も多かったが、気圧の谷や活動の活発な梅雨前線の影響で大雨となった日もあった。かなりの多雨・多照】

6月は梅雨前線が日本の南海上に停滞することが多く、高気圧に覆われて晴れた日が多かった。7月は梅雨前線が日本海に停滞することが多く、上旬のはじめと中旬・下旬の中頃に、梅雨前線の活動が活発となり大雨となった日があった。8月は上旬の台風第5号の通過や、その後の湿った空気や前線の影響で曇りや雨の日が多く、大雨となった日があった。

気温は、6月はかなり低く、7月はかなり高く、8月は平年並だった。3か月平均気温は平年並だった。

降水量は、6月は少なく、7月・8月はかなり多かった。3か月合計の降水量はかなり多かった。

日照時間は、6月はかなり多く、7月は平年並、8月は少なかった。3か月の日照時間は多かった。

## 2. 3か月平均(合計)と月別の平均気温・降水量・日照時間の平年差(比)と階級

北陸地方平均	6～8月	6月	7月	8月
平均気温平年差	+0.2	-1.2	+1.8	0.0
階級	平年並	かなり低い	かなり高い	平年並
降水量平年比	145%	55%	191%	178%
階級	かなり多い	少ない	かなり多い	かなり多い
日照時間平年比	108%	129%	117%	86%
階級	多い	かなり多い	平年並	少ない

(注) 北陸地方平均：北陸地方にある気象官署及び特別地域気象観測所(9地点)ごとの平年差(比)を平均したもの

## 3. 月別の天候経過

### (6月)【梅雨前線は本州の南海上に停滞。かなりの低温・少雨・かなりの多照】

上旬は、気圧の谷や寒気の影響で曇りや雨の日が多く、中旬以降は移動性高気圧に覆われて晴れた日が多かった。梅雨前線は太平洋高気圧の勢力が弱く本州の南海上に停滞することが多かった。上旬の寒気の影響や梅雨前線北側の冷涼な空気に覆われたため気温はかなり低く、高気圧に覆われて晴れた日が多かったことから降水量は少なく、日照時間はかなり多くなった。

### (7月)【梅雨前線は日本海に停滞することが多く、活動が活発となった時期があった。暖かく湿った空気が流れ込みやすく、かなりの高温、かなりの多雨】

中旬までは、梅雨前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日もあったが、高気圧に覆われて晴れた日が多かった。下旬は梅雨前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多かった。

上旬のはじめと中旬・下旬の中頃には、梅雨前線の活動が活発となり大雨となった日があった。暖かく湿った空気が流れ込みやすかったため、気温はかなり高く、降水量はかなり多くなった。

輪島特別地域気象観測所では、7月の月平均気温の高い方からの極値を更新し、伏木特別地域気象観測所では、7月の月降水量の多い方からの極値を更新した。

### (8月)【台風第5号の通過や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、大雨となった日もあった。かなりの多雨、多照】

太平洋高気圧は、日本の南海上で平年に比べ西への張り出しが強い一方、北への張り出しは平年に比べ弱く、本州付近は前線や湿った空気の影響を受けやすかった。高気圧に覆われて晴れた日もあったが、上旬の台風第5号の通過の影響や、中旬以降も湿った空気や前線の影響で曇りや雨の日が多く、上旬と下旬は大雨となった所があった。降水量はかなり多く、日照時間は少なかった。

(注) ある期間に観測された値の最大値(最高値)または最小値(最低値)を「極値」という。

#### 4. 大気の流れから見た今夏の特徴 (500 h Pa 天気図)

等高線 (実線) の間隔は 60 m、ハッチ域 (陰影部) は平年より高度が低い部分 (負偏差域)、白抜き域は平年より高度が高い部分 (正偏差域) にそれぞれ対応している。

	<p><b>6～8月</b></p> <p>日本の南海上では亜熱帯高気圧の西への張り出しが強かった。このため、沖縄・奄美では平年に比べて亜熱帯高気圧の勢力が強く、本州付近には西よりの暖かく湿った空気が流れ込みやすかった。日本の東海上を中心に北・東日本は負偏差で、本州付近への亜熱帯高気圧の北への張り出しは弱く、日本付近では偏西風は平年に比べて南よりを流れやすかった。</p>
	<p><b>6月</b></p> <p>中央シベリアに正偏差、カムチャッカの東から本州付近は負偏差となっていた。偏西風は日本付近で南へ蛇行し、上空にはこの時期としては強い寒気が南下した。亜熱帯高気圧は沖縄の南で平年より強かった。北日本を中心に気圧の谷や寒気の影響を受けやすく、梅雨前線は沖縄・奄美から本州の南海上に停滞することが多かった。</p>
	<p><b>7月</b></p> <p>極付近やシベリアは負偏差。中緯度帯は概ね正偏差で、日本付近も広く正偏差に覆われた。偏西風は平年の北を流れる時期もあり、北陸地方や東北地方では梅雨前線の影響を受ける日もあった。亜熱帯高気圧は日本付近への張り出しが平年より強かった。本州付近は西から暖かく湿った空気が流れ込みやすく、日本海側を中心に大雨となった所があった。</p>
	<p><b>8月</b></p> <p>日本の北を流れる偏西風 (寒帯前線ジェット気流) は東シベリア付近で北へ蛇行した。東シベリアはブロッキング高気圧が発生したために正偏差で、これに対応して地上付近ではオホーツク海高気圧が出現した。日本の南海上から東シナ海は正偏差で、亜熱帯高気圧は西へ張り出しが強かったが、北への張り出しは弱かった。日本海から日本の東海上は負偏差で、日本付近の偏西風 (亜熱帯ジェット気流) は本州付近では平年より南を流れたため、気圧の谷の影響を受けやすかった。</p>

## 5 . 参考資料

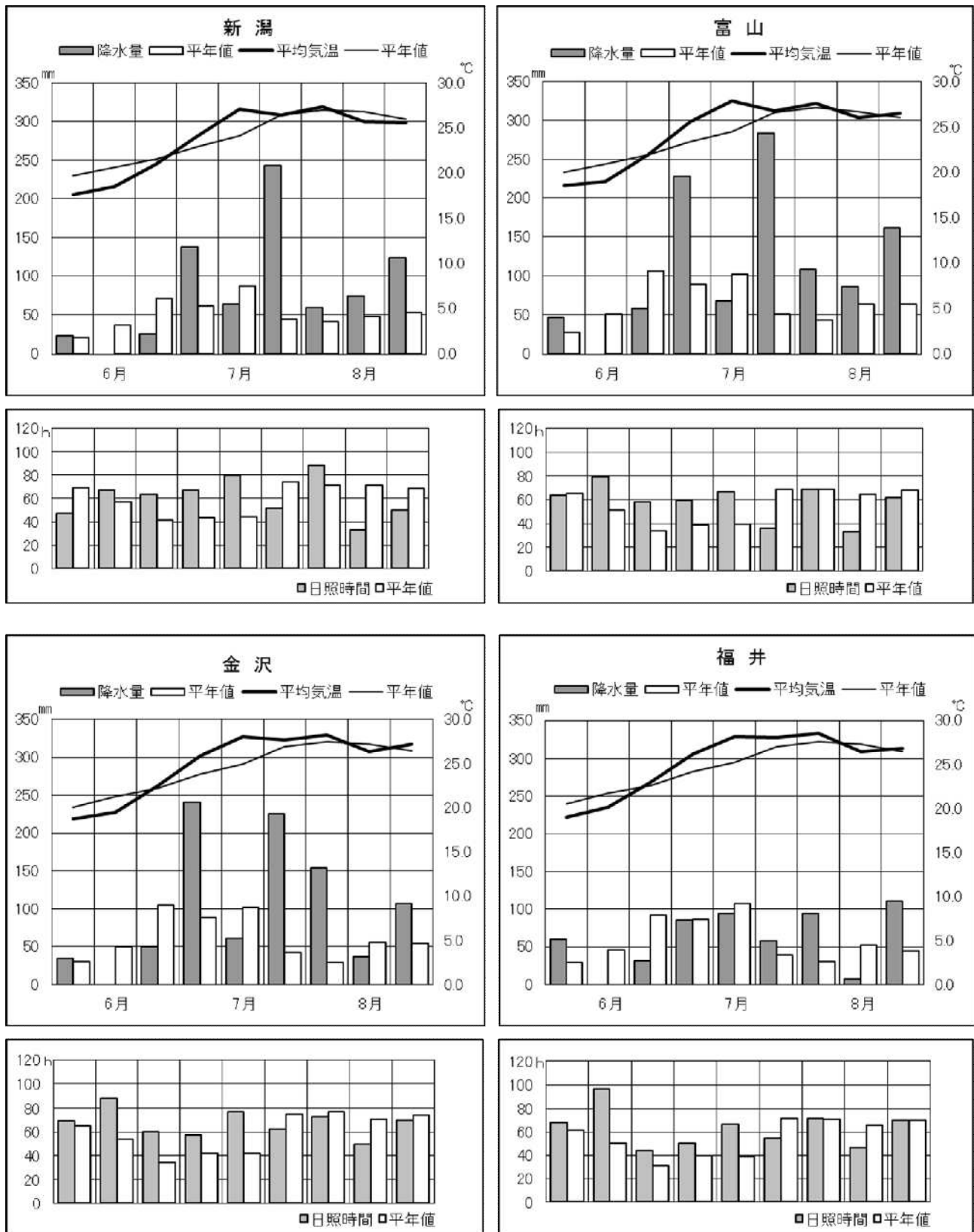


図1 新潟・富山・金沢・福井 旬平均気温・降水量・日照時間時系列

表1 北陸地方における6～8月の平均気温・降水量・日照時間

平均気温	6月		7月		8月		3か月平均	
	実況値	平年差 (階級)	実況値	平年差 (階級)	実況値	平年差 (階級)	実況値	平年差 (階級)
新潟	19.0	- 1.7 ( - * )	25.9	+ 1.4 ( + )	26.2	- 0.4 ( 0 )	23.7	- 0.2 ( 0 )
高田	19.0	- 1.6 ( - * )	26.1	+ 1.5 ( + )	26.1	- 0.2 ( 0 )	23.7	- 0.1 ( 0 )
相川	18.0	- 1.5 ( - * )	25.0	+ 1.4 ( + * )	25.9	- 0.1 ( 0 )	23.0	0.0 ( 0 )
富山	19.8	- 1.1 ( - )	26.8	+ 1.9 ( + )	26.7	+ 0.1 ( 0 )	24.4	+ 0.3 ( 0 )
伏木	19.2	- 1.3 ( - * )	26.4	+ 1.8 ( + )	26.7	+ 0.2 ( 0 )	24.1	+ 0.2 ( 0 )
金沢	20.3	- 0.9 ( - )	27.2	+ 1.9 ( + * )	27.3	+ 0.3 ( 0 )	24.9	+ 0.4 ( + )
輪島	18.4	- 1.2 ( - * )	26.0	+ 2.1 ( + * )	25.9	+ 0.2 ( 0 )	23.4	+ 0.3 ( + )
福井	20.7	- 0.9 ( - )	27.5	+ 1.9 ( + * )	27.3	+ 0.1 ( 0 )	25.2	+ 0.4 ( + )
敦賀	21.1	- 0.6 ( - )	27.7	+ 1.9 ( + * )	27.6	+ 0.2 ( 0 )	25.5	+ 0.5 ( + )
北陸平均		- 1.2 ( - * )		+ 1.8 ( + * )		0.0 ( 0 )		+ 0.2 ( 0 )

降水量	6月		7月		8月		3か月合計	
	実況値 mm	平年比 % (階級)	実況値 mm	平年比 % (階級)	実況値 mm	平年比 % (階級)	実況値 mm	平年比 % (階級)
新潟	48.0	38 ( - * )	443.0	231 ( + * )	258.0	183 ( + * )	749.0	163 ( + * )
高田	88.0	61 ( - )	414.0	197 ( + )	340.5	226 ( + * )	842.5	166 ( + * )
相川	71.5	56 ( - )	430.0 )	250 ( + * )	120.5	96 ( 0 )	622.0	146 ( + * )
富山	103.5	57 ( - )	579.0	241 ( + * )	354.5	211 ( + * )	1037.0	175 ( + * )
伏木	101.0	60 ( - )	566.0	243 ( + * )	233.5	150 ( + )	900.5	162 ( + * )
金沢	85.0	46 ( - * )	526.5	227 ( + * )	297.0	213 ( + * )	908.5	163 ( + * )
輪島	116.0	71 ( - )	284.0	141 ( + )	136.5	88 ( 0 )	536.5	103 ( 0 )
福井	92.5	56 ( - )	237.5	102 ( 0 )	213.0	167 ( + )	543.0	103 ( 0 )
敦賀	86.0	52 ( - )	178.5	91 ( 0 )	338.5	270 ( + * )	603.0	124 ( + )
北陸平均		55 ( - )		191 ( + * )		178 ( + * )		145 ( + * )

日照時間	6月		7月		8月		3か月合計	
	実況値 h	平年比 % (階級)	実況値 h	平年比 % (階級)	実況値 h	平年比 % (階級)	実況値 h	平年比 % (階級)
新潟	177.9	106 ( 0 )	197.7	123 ( + )	171.6	81 ( - )	547.2	101 ( 0 )
高田	179.4	119 ( + )	157.5	102 ( 0 )	143.1	73 ( - )	480.0	96 ( 0 )
相川	179.3	105 ( 0 )	204.6	125 ( + )	197.6	92 ( - )	581.5	105 ( 0 )
富山	201.6	134 ( + * )	162.4	110 ( 0 )	163.4	81 ( - )	527.4	106 ( 0 )
伏木	202.3	134 ( + * )	175.1 )	114 ( + )	174.8	85 ( - )	552.2	108 ( + )
金沢	217.2	142 ( + * )	196.5	124 ( + )	192.0	87 ( - )	605.7	114 ( + )
輪島	188.2	120 ( + )	191.0	122 ( 0 )	192.6	93 ( - )	571.8	110 ( + )
福井	207.8	146 ( + * )	171.2	114 ( 0 )	188.3	91 ( - )	567.3	114 ( + )
敦賀	217.1	159 ( + * )	175.7	120 ( + )	184.2	91 ( 0 )	577.0	119 ( + )
北陸平均		129 ( + * )		117 ( 0 )		86 ( - )		108 ( + )

注1) 平年値は1981～2010年の資料から求めています。

注2) 階級欄の符号は、以下の事を示します。

( - ) : 低い ( 少ない ) , ( 0 ) : 平年並 , ( + ) : 高い ( 多い )

( - \* ) : かなり低い ( かなり少ない ) , ( + \* ) : かなり高い ( かなり多い )

注3) 値の横に ) や ] がある場合には、使用したデータに欠測等が含まれていることを示し、×は欠測を示します。

) 付きの値は正常の値とみなせますが、] 付きの値は欠測等が多いため正常な値と同等とはみなせません。

このため、統計日数 ( 統計に用いた品質が十分な日数 ) を气象台等に確認して、品質を確かめてください。

表2 北陸地方における6～8月の階級別日数

	6月			7月			8月		
	最高気温		最低気温	最高気温		最低気温	最高気温		最低気温
官署	30 以上	35 以上	25 以上	30 以上	35 以上	25 以上	30 以上	35 以上	25 以上
新潟	0(1.3)	0(0.0)	0(0.0)	15(9.8)	0(0.8)	6(2.6)	14(18.1)	1(2.1)	5( 7.8)
高田	0(2.0)	0(0.0)	0(0.0)	20(13.2)	0(1.1)	2(0.8)	14(20.9)	1(2.9)	5( 2.4)
相川	0(0.2)	0(0.0)	0(0.0)	8( 5.3)	0(0.3)	2(1.6)	6(12.8)	0(0.6)	5( 5.6)
富山	0(2.4)	0(0.1)	0(0.0)	21(12.9)	3(1.6)	1(1.5)	17(19.0)	0(3.5)	3( 4.4)
伏木	0(1.9)	0(0.1)	0(0.0)	17(11.4)	2(1.4)	1(1.9)	16(17.9)	0(2.6)	7( 5.8)
金沢	1(1.6)	0(0.0)	0(0.0)	22(13.0)	1(0.7)	14(4.1)	21(20.5)	2(1.4)	8( 8.8)
輪島	0(0.8)	0(0.0)	0(0.0)	13( 8.3)	2(0.4)	2(0.6)	14(15.5)	1(0.7)	3( 1.7)
福井	3(3.5)	0(0.0)	0(0.0)	24(15.3)	4(1.4)	9(3.1)	25(23.0)	4(3.8)	7( 6.0)
敦賀	1(2.7)	0(0.0)	0(0.1)	26(14.2)	1(1.1)	14(6.3)	25(22.2)	2(2.5)	13(12.6)

注1) 真夏日：日最高気温が30 以上の日 猛暑日：日最高気温が35 以上の日

注2) いわゆる「熱帯夜」とは夜間の最低気温が25 以上の日を指すので、ここに示した日数と異なることもある。  
一般的な意味での熱帯夜日数の統計はない。

注3) カッコ( )内は平年値

表3 北陸地方における6～8月(今夏)の最高気温

官署	最高気温	起日	順位	これまでの最高	統計開始年月
新潟	36.4	8/07	更新なし	39.1(1909/ 8/ 6)	1886/01
高田	37.3	8/07	更新なし	39.5(1994/ 8/12)	1922/01
相川	34.6	8/07	更新なし	37.0(1978/ 8/ 3)	1911/04
富山	37.3	7/11	更新なし	39.5(1994/ 8/14)	1939/01
伏木	36.5	7/11	更新なし	39.7(1994/ 8/14)	1883/12
金沢	36.1	8/07	更新なし	38.0(1994/ 8/14)	1882/01
輪島	35.6	7/11	更新なし	38.2(2000/ 7/31)	1929/05
福井	36.9	8/06	更新なし	38.6(1942/ 7/19)	1897/01
敦賀	36.2	8/06	更新なし	37.6(1918/ 8/13)	1897/10

注1) 順位の統計は第5位まで

表4 北陸地方における6～8月の累年極値・順位(3位以内)更新  
月平均気温の高い方からの順位更新

月	順位	官署	実況値	平年差	これまでの最高(西暦年)	開始年	平年値
7	1	輪島	26.0	+2.1	25.9(1978)	1929	23.9
7	3	福井	27.5	+1.9	27.8(1978)	1897	25.6
7	3	敦賀	27.7	+1.9	28.2(1978)	1898	25.8

月降水量の多いほうからの順位更新

月	順位	官署	実況値 mm	平年 (比)%	これまでの最高(西暦年) mm	開始年	平年値 mm
7	1	伏木	566.0	243	559.5(1995)	1884	233.3
7	2	富山	579.0	241	592.6(1964)	1939	240.4
7	3	新潟	443.0	231	511.8(1958)	1881	192.1

## 6. 天候情報発表状況

8月3日15時00分 長期間の高温に関する北陸地方気象情報 第1号

(注) この季節のまとめは、北陸地方の気象官署および特別地域気象観測所における気象観測値等をまとめたものです。  
なお、資料は速報値であり後日の調査で修正されることがあります。